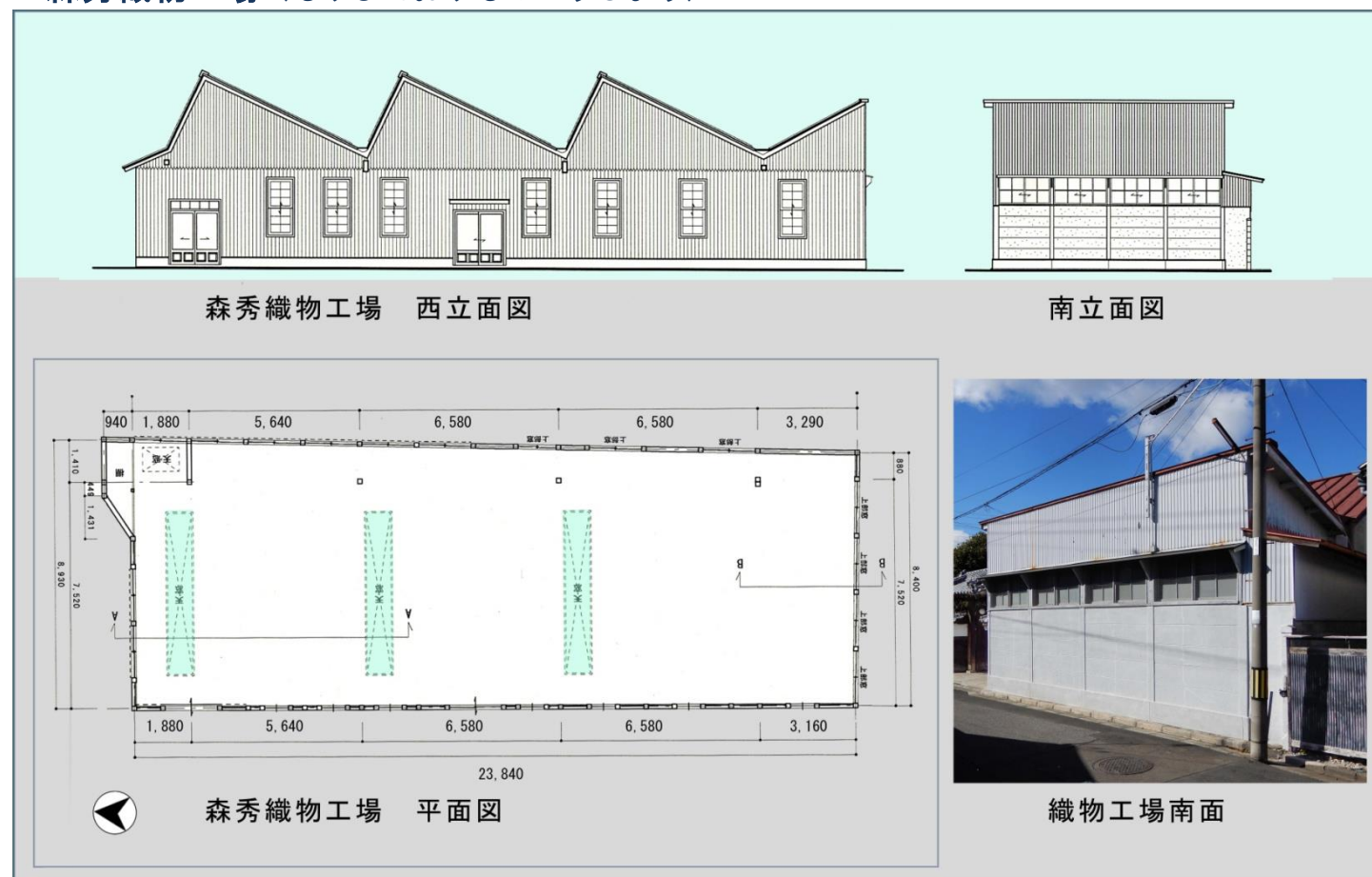


森秀織物工場

1 旧寄宿舎(製品加工場)、2 旧物置(八丁撚糸場)、3 旧現場事務所(立糸整経場)、4 工場



1 森秀織物工場 (もりひでおりものこうじょう)



敷地の南東角にあたり、南端中央の門から北へ延びる通路の東側に存在する。

南側の旧道に面する外壁はモルタル塗りで、当初からの状態であったと思われる。西側面は鉄板葺きに改変されていたが、平成24年日本ナショナルトラストの助成を受け外観の修理を行い当初の板葺きに復旧した。内壁は漆喰塗りで腰は板張りである。現在も織物工場として稼働中であり、ジャガードの織機が据付けられている。



名 称	構造形式・規模	建築年代等
森秀織物工場	木造平屋建、鉄板葺鋸屋根(3連)工場 東西(桁行)8.40m、南北(梁間)6.58m 梁を3連。(全長 23.84m) 小屋組は木造のトラスの形式で鉄筋を併用。	大正 13 年

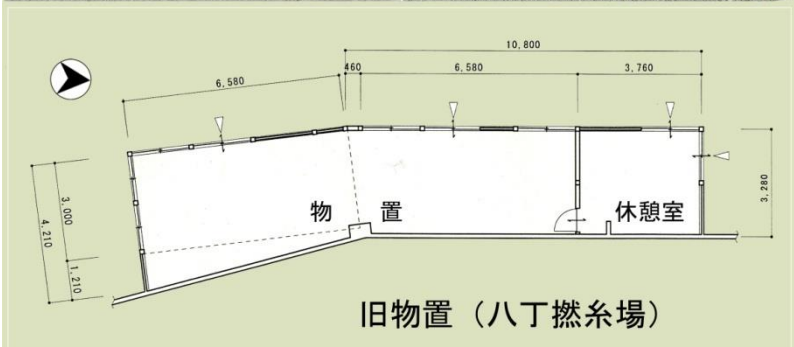
2 森秀織物旧現場事務所(経糸整経場)【もりひでおりものきゅうげんばじむしょ：たていとせいけいじょ】



通路を挟み森島家住宅の東側に位置する。この部分の通路には覆屋が付く。
北側はトイレの一部に改装され、南側は経糸整経場として使われている。

名 称	構造形式・規模	建築年代等
旧現場事務所	切妻造瓦葺、小屋組はトラス形式の洋小屋 南北(桁行)9.5m、東西(梁間)4.75m 東側の西辺 10.44m を底辺とする北辺 3.8m、南辺 1.9m の三角形状下 屋は、敷地にあわせて増築されたボイラー室と伝わる。	大正 13 年

3 旧物置（きゅうものおき）【八丁燃糸場】（はっちょうねんしば）

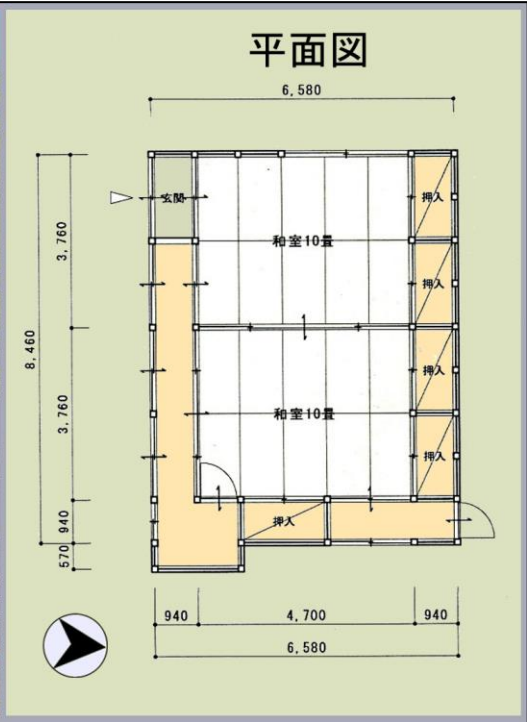


敷地ほぼ中央に位置する。工場とそれに付随する施設が洋小屋に対し、この旧物置と寄宿舍は和小屋である。敷地に沿って屈曲し接続し両側に出入り口を設ける。

元は紋紙を収蔵する倉庫であったが、御召の生産に欠くことができない八丁燃糸機による燃糸場として利用され、一部は休憩室となっている。

名 称	構造形式・規模	建築年代等
旧物置 八丁燃 糸場	木造平屋建 切妻造瓦葺 小屋組：和小屋 南北(桁行)10.8m 東西(梁間)2.8m 南北(桁行)6.58m 東西(梁間)3.00m	大正13年

4 旧寄宿舍（きゅうきしゆくしゃ）【製品加工場】（せいひんかこうば）



旧燃糸場の南側に南面して建つ。小屋組は和小屋である。外壁は押縁下見板張とし、純和風造りで南東に玄関を設ける。玄関東脇から南に面して幅0.94mの廊下が廻り、その突き当たりの南東角には便所があった。この廊下に面して二間続きの10帖となっており、北側にはそれぞれ2つの押入れが取り付けられている。押入れは上下二段で、それぞれ寄宿人が使い分けたということから、一部屋10帖に4人が生活していたと考えられる。現在、東側に押入れが設けられているが、本来この部分も廊下で南から東にかけて廊下が廻っていたと思われる。この建物も大正13年の創建時と考えられる。

名 称	規 模	建築年代等
旧寄宿舍 2	木造平屋建、入母屋造瓦葺 東西(桁行)6.58m、南北(梁間)8.46m	大正13年